

## 第 21 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2017 年 04 月 19 日(水)14:00～16:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

### 1. 戦略プラン 2017 骨子案について

NDF 事務局より、戦略プラン 2017 の骨子(目次構成)案について、以下のとおり説明した。

- 目次構成としては、おおむねこれまでの戦略プランを踏襲することになっている。
- 「はじめに」には、NDF が 2015 年以降毎年戦略プランを取りまとめていること、事故後 6 年を経て対応が汚染水対策をはじめとする短期的対応から中長期的な課題の対応へとフェーズが移行しつつあること等を記載する。
- 続いて、戦略プランの位置付け及び目的並びに対応の基本的考え方について記載する。対応の基本的考え方としては、引き続き、リスクを継続的、かつ、速やかに下げるという基本方針の下、「5つの基本的考え方」に従って進めることとする。
- リスク低減戦略においては、リスクマップを最新のものに更新するとともに、対応の計画に際しては安全確保の考え方を提示することが重要であることを指摘する。
- 燃料デブリ取り出し分野においては、現時点で最も適切と考えられる燃料デブリ取り出しの開始部位、その際の原子炉格納容器の水位及びデブリにアプローチする方向を提案するとともに、全体計画の最適化の重要性に言及する。また、廃棄物対策分野においては、廃棄物の処理・処分の基本的考え方の取りまとめに資する提言を行う。さらに、研究開発への取組や国際連携の強化についても記載する。
- 最後に、廃炉プロジェクトの進め方として、廃炉の取組を着実に進めていくために必要なプロジェクトリスク管理の在り方や社会とのコミュニケーションの在り方、風評被害防止の取組等を記載する。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 廃炉活動を推進していくに当たっては、責任主体や各組織・体制の関係を明確にすること、これが明確でないと作業の停滞や遅延を招くおそれがある。特に規制側との関係では、共通目標を持って仕事を進めることができるように、対話を行うことが重要と考える。
- どういう作業をいつ頃までにやる必要があるのか、その実施にはどの程度作業量が必要か、という工程の全体像が概略でも分かってくると、作業を担う側にとって対応を検討しやすくなる。
- 放射性物質に起因するリスクを低減するために、放射性物質の飛散・分散が起こらないようにすることを目指して対処するという考え方を採用することを、しっかりと説明するべきである。
- 「最適化」は現実的な制約条件を踏まえて決まってくるものである。何が制約条件となるかを認識した上で、現実プロジェクトを実施していく観点から取組を説明できるようにしていくべきと考える。
- 研究開発、全体計画にある課題に関して必要なアクティビティーとして出てくるものである。その課題解決のために、必要な機関が連携して研究開発をやっていくという視点が重要である。
- プロジェクトマネジメントにおいては、継続の重要性を指摘するだけでなく、廃炉の取組は非常に

長い時間のかかるものであるから、参加者に人生をかけて働いていただくような環境を適切に作らなければならない、という覚悟を示すことが必要。また、プロジェクトを継続するために実施するのではなく、プロジェクトを終わらせるために実施するのであり、その点誤解されないよう気を付けるべきである。

海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- 各号機について知識、所見がかなり得られてきているが、まだ限定的である。もちろん根拠はあり、技術的にかなり進んできたと思うが、調査としてより強い確信に至るために、燃料デブリの場所や形状、性状を実際に確認することを優先的に取り組んでいくべきである。
- これから先の作業を進めるに当たっては、プロジェクトマネジメントあるいはプログラムマネジメントが必要であり、NDFや東電はその機能を強化すべきである。また、ステークホルダー、特に地元住民とのやりとりに関して、能力を向上させていくことも重要である。第2回福島第一廃炉国際フォーラム初日において、住民対話が企画されているのは、大きなステップである。
- これから先はNDFの役割が変わってくるということで、プロジェクト管理の能力をさらに強化する必要がある。NDFに加えて東京電力も、役割、責任が変わってくると想定され、新しい仕組みを通じてより効率のよい取組が推進され、大きな進展につながると確信している。
- これまでの戦略プランを一度振り返り、2017年版につながってくる目標や手法が本当に現実的なのかを確認することは重要である。またこのプロジェクトにおいては様々なリスクがあるということを認識し、プロジェクトリスクの管理には、包括的なリスクマップを戦略プランの根拠として使う必要があるかもしれないと考える。

## 2. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力より、福島第一原子力発電所の状況について、汚染水対策である1号機タービン建屋滞留水の汲み上げ完了や3号機の使用済み燃料取り出しに向けた準備、燃料デブリ取り出しに向けた各号機の内部調査の結果、また敷地の線量低減等労働環境改善の取組について報告があった。

廃炉等技術委員、海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- 内部調査の測定線量については、福島県内で出たある会議で、ああいう数字になるであろうということとは理解していた、という落ちついた反応があった。しっかりと丁寧な説明を継続することで、そういう反応も増えてくると思うので、ぜひよろしくお願ひしたい。

## 3. その他議題

NDF事務局より、以下の事項等について説明があった。

- NDF 廃炉支援部門の最近の活動
- 今後の廃炉等技術委員会等のスケジュール

以 上